

ヒッポのみんなのマナイマ～な暮らし♪

交流特集号!

Vol.5



2023年11月30日 発行

ウェブサイト <https://mainichitagengo.net/>

まいにち多言語

《Multilingual Natural Immersion》

一般財団法人

言語交流研究所

ヒッポファミリークラブ

東京都渋谷区渋谷 2-2-10 青山 H&A ビル 3F
ヒッポ公式サイト <https://www.lexhippo.gr.jp>

多言語の環境はどこでも作れる

コロナ禍でも継続してきたヒッポの高校留学 Year Long Program (イヤロン/YL)。直前で行く国をマレーシアからタイに変更することを余儀なくされた中原さん。小さい頃からヒッポで育った柔らかなで、数々の壁を乗り越えた体験をお届けします。



สวัสดีค่ะ (こんにちは)!

私はタイに10か月間行ってきました。ホスト家族はお父さんお母さんと弟のアンフィールド君でした。でもその3人以外におじいちゃんおばあちゃんとか、おばさんとか、色々関わってくれました。少し日本語がしゃべれた弟とは日本語で、お母さんたちとはしばらくは英語でしたが、おじいちゃんとおばあちゃんは全く英語ができませんでした。だから自分のありったけのタイ語で表現しなくちゃいけなくて。最初言えたのは「サワディーカー」と「アロイディーカー」これだけでしたが、タイ語ができないとあきれられるじゃなくて、タイ語ができるようにしてあげようとしてくれました。

青少年交流準備で「部屋にこもるのはやめよう」と教えられていたので、本読んだり、日記書いたり、ずっと誰もいないリビングにいました。すると「何でテレビ見ないの」とか家族が話しかけてくれる機会が増えました♪

どうやってタイ語ができていったか?は私もわからないけど、みんなのまねをしていたかな。例えば「アロイディー」。食べてる時に言ってるから美味しいことばなのかなと思って、食べた後に言ってみたり。またことばだけじゃなくて行動もまねしていました。タイ人は箸をあまり使わなくて、スプーンとフォークをちりとりとほうきみたいに使うんです。食べにくいと思ったけどやってみたら、タイ人になった気分が嬉しくなりました。



他にはマンスリー(月に1回のレポート)も最初からタイ語で頑張ってた書いてました。わかるはずもないタイ語を「これは合ってますか」と家族みんなに聞きまくっていたら、本当に2、3か月後くらい結構早くからタイ語がわかるようになってきました。

学校では留学生って珍しいから、「日本でどこに住んでるの」とか「ご飯一緒に食べよう」とかいっぱい話しかけてくれます。でも3、4か月後には私は普通の存在になっていて、それが寂しくて、どうにかみんなの関心を取り戻したいと思うように。しかも同じ頃タイ語に飽きてしまったんです。タイ語とは違う言語を喋りたい。前からK-POPとか好きで韓国語は少し喋れたので、韓国語を喋りたいなって。

私の学校は言語を重視していて、タイ語・中国語・ラオス語学部などがあったので、韓国語の喋れるタイ人を探して韓国語学部に行ってみました。そしたらコミュニティがどんどん広がっていったんです。そんな感じで韓国語だけでなく、タイ語が好きな友だちや中国語が好きな友だちとかを作って、自分の気分によって喋りたい言語を変えていたら、タイ語に戻った時にも「タイ語めっちゃ聞こえるじゃん」って

01

多言語の環境はどこでも作れる

02・03

夏の青少年交流／ホームステイ受け入れ

04・05

夏の国内キャンプ／モンゴルゲルキャンプ&ホームステイ／夏・秋の家族交流

06・07

高校留学イヤロンプログラム

08

カバ人のつぶやき／海外ヒッポ／インフォメーション



なって、タイ語のスラングを抜け出すことができました。

実は元々はマレーシアに行くつもりでした。小さい頃からヒッポで活動していて「多言語の国に行きたい!」と思っていたから。でもコロナで行けなくなってしまいました。色々な候補から目に入ったのは私がちょうどはまりしていたタイドラマの発祥地、タイでした。実は「タイってタイ語だけ」で自分の行きたい国の条件と全く反していた!でもタイにいる間、全く違和感を感じませんでした。不思議に思って考えてみたら、私自身がタイで無意識に多言語の環境を作っていたことに気がつきました。諦めないでイヤロンにチャレンジして良かったな!(N.H.さん・高3/神奈川県・あんによんF)



2023夏の青少年交流



今年の夏は、8つの国と地域（リアル交流としてアメリカ・イタリア・マレーシア・メキシコ・台湾のホームステイ交流と中国太湖大学堂小学生キャンプ、オンライン交流としてロシア・韓国）を実施しました。小学3年生から大学生年代まで総勢403名が各国でホームステイやキャンプに参加。3年間オンライン交流をしながら現地に行ける日を待っていた子、中学生になって初めてホームステイする大冒険に出かける子、様々な思いを持ってみんながそれぞれ宝物の体験をしてきました。

マレーシア ホストファミリーがばくにやさしかった。ドリアンがくさかった。マレーシアの空港のピアノをひけて、たくさんはく手をもらえてうれしかった。ホストの家の庭のマンゴーにあこがれた。でも、そのマンゴーがすっぱかった。成長したと思う点は、物事に柔軟に乗りこえる力。仲良くなるコツは笑顔であいさつすること。よく使ったマレー語はやっぱりクニャン（おなかいっぱい）。辛かったことはエアコンがききすぎていたこと。（マレーシア交流文集より）（M. K. さん・小6 / 兵庫県・神戸F）

韓国オンライン キンパを作る事になり、私は我流でのりの三分の一位でご飯を盛って巻いたらすごくキンパの断面の具が偏ってしまって、その時にバディのセヒョンちゃんが「トトト」って言うていて、びっくりしました。私はもっと少なくしてって言うていたと思って2回目はものすごく少なくして巻こうとしたら、すごい勢いでもう一度「トトトトトト!!」と来てきて、正しいキン

パの巻き方の画像を見せてくれて、「ト」って「もっと」という意味なんだと分かりました。私がしてた事めちゃくちゃ真逆で、こういう事があるから交流っておもしろいなって思いました。（W. M. さん・小6 / 東京都・陽陽F）

イタリア 家出るときにおばあちゃんとひいおばあちゃんが俺のところまで来てくれた。おばあちゃんと直接かかわることは多かったわけじゃなかったんだけど、ご飯作ってくれたりした。でも、おばあちゃんは俺が出る時に泣いてて、それでなんかもらい泣きしそうになっちゃって……。ひいおばあちゃんは90才、「あなたは私たちの家族」って言うてくれて、最後に。それで本当にいい街で、いい人たちだなあって。またなんかもらい泣きしそうになっちゃって。ホストのディエゴは泣いてなかったんだけど、お母さんも泣いてて、でもおれは最後は笑顔で終わろうと決めてて。まあ最後は笑顔で別れられてよかったかな～。（報告会より）（O. H. さん・中2 / 長野県・ドレミF）

太湖大学堂キャンプ

水世界!



Thanks!

アメリカ



鶏!

ロシアオンライン

対面式
Привет!



マレーシア



Melukis!

韓国オンライン



一緒に
キンパづくり

台湾

禮物



イタリア

Che buono!



メキシコ

Pintar!

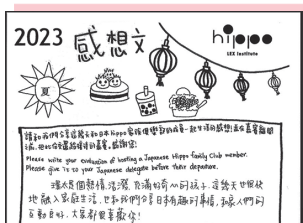


台湾

ぼくははじめてのホームステイでホームシックになりました。けどそんなぼくをやさしくささえてくれたホストと家族はぼくのたからものです。はじめての外国ですのでこまったこともたのしいこともいっぱいあります。けどホストと家族のささえあつてのホームステイだとじっかんしました。もしまたさかいがあつたらまた参加をしたいです。(交流中にヒッポ本部に宛てたハガキより)(S. Y. さん・小6 / 東京都・アブリート F)

環太是個熱情，活潑，充滿好奇心的孩子。這幾天也很快地融入家庭生活，也和我們分享日本有趣的事情，和家人們的互動良好，大家都很喜欢你！

(K くんがあつという間にホストファミリーに溶け込み、愛された様子が伝わってきます)(A. K. くん・小6 のホストファミリー感想文より)



アメリカ

とても楽しいです！色々なことをしました！乗馬したり、いろいろな店のアイスクリーム食べたり、ナイトプールに行ったり、ゲームセンターに行ったり、バーベキューをしたり、日本食をつくったり、ケーキをつくったり、フロリダに女子旅にも行きました！（中略）困っていることは特にはないです。ことばはなんとなくだけ通じてます！！ホームシックとかにもなりません。あつという間のアメリカでした。(交流中にヒッポ本部に宛てたハガキより)(S. S. さん・中1 / 埼玉県・入間ザベ F)

メキシコ

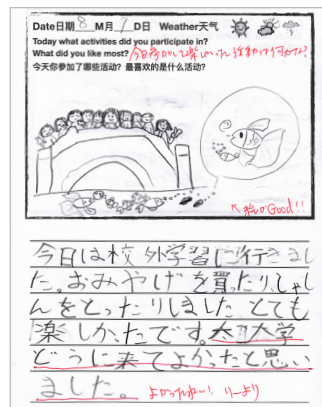
日本と大きく違ったことは、時間のかんかくです。ホストママに「ロシュエント、少し待っててね」と言われた時に、日本の「少し待っててね」は長くても5分くらいだと思います。しかし、僕が過ごした家族の「少し」は平均15分～20分です。ぼくは「少し」と言われ30分経った時は本当に心配になりました。このような体験はぼくの宝物です。一生忘れないことでしょう。(感想文から一部抜粋)(I. N. さん・中1 / 千葉県・幕張ラマイロ F)

ロシア
オンライン

プリ～ビェ！リアル交流が増える中、ロシアは今年もオンラインと決まっていたから、準備では子どもたちもグループフェロウの私たちも楽しく遊んじゃおう！オンラインでできることを目いっぱいやってみよう決めました。大人が先走るのではなくて、でも一人でやるのでもなく……。みんなで一緒に実験だ！ボルシチ作ろう、自分の街紹介、パタパタ紙芝居で自己紹介、Zoomのホワイトボードを使ってお絵描きや絵しりとりしたり。本番も楽しいことをバディとやるだけ！子どもは純粋！やっぱり大切なのは楽しいこと。ドラえもんのポケットのように、ぱっと出せてそれで遊べる。そんな青少年はほんとにハラーショ！でした。(K. E. さん・フェロウ / 東京都・サリサリ F)

中国
太湖大学堂

最初の3日間ぐらいまでは日本に帰りたいて思っていました。でも、たくさんのゲームをしたり、すごく楽しい授業をしたり同じ部屋や同じ班の子とたくさん話しているうちにだんだん日本に帰りたくなってきた、太湖大学堂に残りたいとおもうようになりました。カンフーやきょう典を覚えることができたし、中国の子とも仲良くなることができたから、すごく楽しかったです。一番楽しかった遠足では同じ班の子とすごく楽しい思い出ができました。一番楽しかった授業はカヌー、とびこみの授業です。また来年も行きたいです。(感想文から一部抜粋)(S. A. さん・小5 / 愛知県・はちみつ F)



◀参加した子どもたちが毎日付けていた絵日記より。赤字はグループフェロウのコメント。校外学習で班に分かれて、みんなで街に出かけた時の楽しさが絵からも文章からも伝わってきます。(H. M. さん・小3 / 宮城県・レガロ F)

＼ ホームステイ受け入れ交流 ／

アメリカ、台湾から4年ぶりに38名の青少年が来日。日本の暑い夏をヒッポメンバーの熱いおもてなしで楽しみました。

アメリカ

初めてアメリカの子を受け入れしてみて、楽しかったです。3週間半という長い間でしたが、Lily ちゃんと一緒にジブリパークへ行ったり、家でタコスとワカモシの作り方を教えてもらったり、楽しい時間を過ごせてよかったです。学校の部活に行き、外国人の1年生の子とも仲良くなってうれしかったです。夏祭りに行くときに浴衣も一緒にきて行けてよかったです。

母：我が家の子どもたち3人(20歳・14歳・9歳)は自然体。トランプゲームをしたり、一緒に食事を作り食べて過ごすことで仲良くなっていく姿はとても嬉しかったです。無言の時間も一緒に過ごしてる大切な時間だったと今は思えます。主人もLilyとの英語での会話を楽しんでました。ただこの猛暑の季節に3週間半は長かったです。「高校留学でまた日本にきたい」との彼女のことが嬉しかったです。今もLINEでの交流が続いています。(感想文より一部抜粋)

(M. N. さん・中2、M. N. さん・フェロウ / 三重県・ハーモニー F)

台湾

私は来年台湾に行くので、めぐみちゃんと交流して台湾のことがたくさん知れて嬉しかったです。めぐみちゃんは何回も日本に来ているけど、それでも家族と離れて7日も泣かずに過ごせてすごいな、私はできるかな？と思いました。スーツケースに半分もお土産を持ってきてくれたので、日本のお菓子和台湾のお菓子でパフェを作ったのが仲良くなれて楽しかったし、めぐみちゃんと私だけで朝食を作ったのもとてもいい思い出です。(感想文より一部抜粋)(M. Y. さん・小4 / 東京都・シンガ F)

2023夏の国内外キャンププログラム /

今年の夏の国内キャンププログラムは3つ。サマージョンキャンプ 2023 ふるさと・飯山 (378人) と無人島・釜島 (103人) に加えて、新しく沖縄やんばる・はまばる多言語ネイチャーキャンプ (143人) が開催されました。また国外でもモンゴルグルネイチャーキャンプ交流 (259人) がスタート! 当初予定の2倍のメンバーが3つの班に分かれて参加しました。自然の中で赤ちゃんからシニア世代まで多世代が交じり合い、多言語が飛び交うヒッポならではのキャンププログラムの幅がさらに広がった夏となりました。



飯山



沖縄

It's New!



釜島



みんなで
いかだ作り

野菜の収穫
お芋掘り



ビーチで
沖縄空手



綱引きで
火起こし。
掛け声は
かま!しま!
かま!しま!



▲台湾の薇閣小学校から26人が参加、三線にもチャレンジ



波打ち際で
キャンプファイヤー

夏・秋の家族交流 /

本格的に家族交流が戻ってきて、夏はフランス (18人) とメキシコ (30人)、秋に初交流のカザフスタン・キルギス (22人)、久々の韓国 (49人) と中国大連 (8人) で交流が開催されました。待ちに待った世代を問わず参加できるホームステイプログラム。現地の生活にどっぷり浸る楽しさ、嬉しさをたっぷり味わい、感動の出会いがたくさん生まれました。



さき・4歳
(感想文より)

フランス



メッスの受け入れ団体レザミ・ドゥ・ジャポンの代表を長年務めてくれているジゼルさんは、毎回、ホストファミリーもしてくださっています

韓国



▲ソウル・光州・晋州・釜山
4都市で受け入れしてくれました



メキシコ



9歳のナンシーが「私のことを覚えていてくれるようにこれをあげるんだ」と言って、出発の朝、大事にしていためいぐるみをくれました。本当に涙が出ました。(感想文より) (K. M.さん/三重県・あいあいF)



▲ホームステイの後は、LEX México 25周年記念のコングレッショ(会合) @ Huatusco, Veracruz に参加



中国・大連



4年間待ち続けていた大連交流に夫婦で参加。二人の年齢、合わせて160歳越え!

3歳と1歳。とっても仲良しになりました



It's New!

モンゴル

◀大変お世話になったモンゴル文化教育
大学理事長の牧原さんも一緒に



◀羊の丸焼きは
最高のもてなし



ホスト家族と。
日本とモンゴル、
みんなそっくり!

スポーツ広場で
みんなで踊ったよ▼



●モンゴルですっかり子どもになっちゃった

交流に申し込んだ途端にスピーカーから聞こえてくるモンゴル語が全然違って聞こえ始めました。数か月前に加わったモンゴル語、たくさん音をためていきたい!ファミリーでみんなと一緒に声に出してまねしてみると、身振り手振りしながらモンゴル語を話している気分に。

そしてモンゴルへ!ワクワクしながら出会ったホストファミリーは私と同年代のママと可愛い20歳のお嬢さん。小5のメンバーのAちゃんと同じ家に入りました。英語やロシア語に混ぜて、私がたまにモンゴル語を口にしてみると嬉しそうに聞いてくれました。帰って写真を見ると、私、本当にAちゃんと姉妹みたい。子どもみたいに何でも出すことに躊躇がなく、楽しく帰ってきました。

帰国して3か月、報告は少しずつモンゴル語になってきました。考えてると喋れないので、持ってる音で最初の一言を言おうと思いました。音源から私が見つけた「シングポールには初めて来ました」みたいなところを使って「ヴィーモンゴルアンフォルタルチイ」で始めちゃえ!みたいな。あとは「何語が喋れる」とかはいろんなシーンで言うてるからよく聞こえてきて、それをちょっと足して言うとか…。はっきり分からなくても、多分こうかな?と音を口にしてみると、後から発見する!それが本当におもしろくて仕方がないこの頃です。(I. Y.さん・フェロウ/千葉県・ソニードーロF・ボナジョルナータF)

It's New!

カザフスタン・キルギス

キルギスでは5泊6日のホームステイ。
初めて生で聞いたキルギス語はトルコ語
にそっくり▼



▲カザフスタンでは市川日本語教室の学生さんたちと
One day交流

アタ(お父さん)とアパ(お母さん)の故郷のタラスという街に山を二つ越え車で6時間かけて行きました。道中は山脈から流れる美しい水にお腹を壊すかも?なんて思ってもすっかり忘れて一緒に飲み、ハエのたかる料理を平気で時には手で食べ、三角の穴のついただけのトイレを“はいはいこれね~”と用をたせるようになり、大山脈におしりを向けてのナチュラルトイレを1回経験。日本だったら普段しないことをできている自分にびっくり…。そんな中、みんながおもてなししてくれた最高のことは、家畜小屋で羊たちを見せてくれたおとに、その1頭を御馳走になったことでした。(感想文より)
(N. M.さん/大阪府・JungAngF)

●3歳の息子とメキシコに初交流

息子はこれまでファミリー(ヒッポの集まり)の場ではヒッポの音源にある多言語の歌を歌うことはありましたが、自己紹介や「Hola」のひとつも言ったことがありませんでした。でも、ステイ5日目になると「Ayudame por favor!!」「Corazón abierto!」「uno dos tres」などホストとの会話にあったことばや、「めんちよめもらごはじ〜」「てりまかし〜」などファミリーや音源にある音を突然言い始めました。そして「Quieres más?」「Tienes hambre?」「Te gusta?」「Que paso?」などの自分に向けられたことばに頷きや首を振るなどで会話が成立するように。

最終日、私とホストが翌日のバスの時間や出発時刻について話していたら「4時にバスが出るの?」と聞き取った「Quatro y media」ということばから状況を推測しているのは、このステイ中に私がやってきたことと同じ。ホストの言っていることは単語ひとつひとつは全くわからないのに、でもなんとなくわかる。思い出してもどんなことばを使っていたのかは全くわからないのに、その場では大笑いを一緒にして、合いの手を入れられる。そのうち、何度も繰り返し息子に向けられていたことばは、いつの間にか私の口からも出るようになっていました。どんな時も目を見てゆっくりと話してくれたホストファミリーの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。(N. I.さん/神奈川県・のればらF)

＼ ヒッポの高校留学 Year Long Program (イヤロン/ YL) /

ホームステイをしながら現地の高校に約1年間通うプログラム。2022年春夏に出発した92名の高校生たちがタイ、アメリカ、イタリア、カナダ、スペイン、ドイツ、フランス、ベルギー、メキシコから帰国。22年度、冬に出発した14名の高校生たちも、オーストラリア、アルゼンチン、ブラジルから、11～12月に順次帰国しています。高校生たちが留学を通して見つけたことを紹介します。

イタリア 4か月目のマンスリーレポートから

みんなそれぞれ思ったことがあったらすぐ発言するのがすごく良いなって思って。みんなの前で発言なんて絶対無理って思ってたけど、今はイタリア語の授業の時のみ（他の授業は難しすぎる…）分からなくて疑問に思ったらすぐに質問したりするようになったのが、少し成長っていうか自分でもちょっと変わったなって思う。（W. M. さん・高2 / 東京都・三茶 F）

ドイツ 生きるのが楽になったな

私は家のルールがなかなか身につかなくて、ホストママに何度も注意を受けた。んで毎回、理由を聞かれる。忘れてた～とか、まだ習慣づいてないから～とかで良いの。ここで最悪なのは“何も言わないこと”。おかげで自分の考えを言うことが当たり前になった。ドイツで会話する時は「きっと拾ってくれる」からとりあえず言ってみかかって友だちとしゃべり続けた！そして気になる単語が出てきたら「待って！それなに？今言ったやつ」って会話中断させて聞くねん。したら友だちはわかりやすいドイツ語で教えてくれるし、家族は1時間歩きながら教えてくれたりする。すごいよね。でもわからん時もある。それでいい！その時間も楽しかったから。こうしてね、私は何かを言う力と、気になったことは逐一聞く力を身につけたんです。

スーパーで買い物したら、少年に「持ち合わせがないのでいくらくれませんか？」って聞かれて怪しすぎて断った。ホストファミリーに言ったら「なんで困ってる人を助けてあげなかったの？」って。まさかのそっちかい？！こんな風にドイツ節に面食らって、自分の考えてた常識がちっぽけなことに気づいた。そしたらいろんな意見

を受け入れやすくなったし、同時に私の意見がみんなと違っていいんだ！って思えた。

帰国したらあら不思議！なんか生きやすい！YLって自分と向き合ってるうちに弱点が浮き彫りになって、自分なりの策を見つけ出してくる。だからYL生ってかっこいいんだよ！（A. A. さん・高3 / 大阪府・泉大津 Wald F）

スペイン 僕のイヤロンは“un reto (挑戦)”

3歳の時にヒッポに入って、たくさんの先輩イヤロン生を見てきた僕にとって、イヤロンはひとつの大きな挑戦でした。なので僕は自分のイヤロン生活の中で常に「終わり」を意識し、やり切って帰ることを目標にこの10か月間を過ごしてきました。イヤロン生活はいつも選択の連続。「人通りの多い道を帰るか、少ない道を帰るか」のような小さなことも「偶然友だちに出会う、誰とも会わずに一人で」といった違った未来が生まれ、本当に自分次第。

ビザの関係で出発が遅れた間にファミリーに出まくって応援してくれる人を増やし、僕も静岡のメンバーが大好きになり、どんなふうに異国の地を生き抜いているのかをみんなに聞いて欲しくて、月に一度のマンスリーレポートにとても力を入れていました。大人はもちろん、小さい子どもたちにも見てほしいと思い、「見るだけで楽しいマンスリー」を心がけて毎月時間をかけて書き上げていました。

そうして毎日色んなことをめっちゃ考えながら10か月をやり遂げたことが今の僕の大きな自信に繋がっています。（H. S. さん・高2 / 静岡県・きてこ F）



イヤロンあるある

帰国直後のアンケートより。(カッコ内は回答者の参加国とニックネーム)

Q. 一番美味しかったものは？

●パン屋さんで買う canulés, pain aux raisins (カヌレとぶどうパン) (フランス・ひな)

●麺から手作りしたキノコパスタ！麺が柔らかくてもちもちしてたし、ホストパパが作ったキノコのソースも合わさって buonissima (最高においしい) だった！ (イタリア・あみ)

●アラスカで食べたサーモンチャウダー。ガレージにあった冷凍庫は夏に釣りに行った時のサーモンでいっぱい！ (アメリカ・ブルー)

●ratatouille (ラタトゥイユ)。ホストママがフランス出身で冬頃よく作ってくれました。ホストママの手料理の中で1番お気に入り。 (ベルギー・ここちゃん)

Q. どうしても食べられなかったもの

●オリーブ。国は違ってもダントツ。(スペイン・みっき、アメリカ・ちびナッツ、ベルギー・ここちゃん)

●牛乳かけご飯。牛乳をかけたお米っていう事実がなんか受け入れられなかったです笑 (フランス・はるな)

Q. ことばの発見おもしろエピソード

●Mettiti sedutoと言われて無意識に座った自分。なぜ理解できなかったんだろう？そういえば家族のみんながいつも家の犬に seduto (=お座り) と言っていたことに気がついた。(イタリア・こうちゃん)

●音が似てるけど意味が全然違うことがばに一時はまってました！！agree と ugly、discussing と disgusting や real と weird など。(アメリカ・りぼん)

●地震の訓練の時、「ジョーク」と言われて「訓練」だとわかった。イタリア語で「訓練」と言われていたらわからなかったと思うけれど。(イタリア・える)

Q. 準備しておいてよかったことは？

●たくさん洋楽を聴いていたこと。友だちとの会話で共通の話題を持って話せることにつながった。(アメリカ・コブラ)

●準備でヒッポの場に出かける時、途中から22生(YL同期生)に会うという目的は捨てて、知らない人に声をかけるようにしたこと。(ドイツ・ゆうと)

Q. YL 中で最高の瞬間！はどんな時？

●学校のアメフトの試合でみんなと同じように掛け声とかしたり、プロムやダンスパーティーでみんなと一緒に楽しんでいた時。ああ自分アメリカにいるんだあって感じて最高だった！(アメリカ・ちびナッツ)

●フラメンコを9か月間頑張った。お別れパーティーの時に先生や周りのおじちゃん、おばちゃんから「あなたみたいな留学生は初めて！うるさくておもしろくて笑顔が素敵な子は！本当にありがとう。いつでも戻っておいで」と言ってもらえた時。(スペイン・みっき)

Q. カルチャーショックだったことは？

●スーパーに行った時にホストママが売ってる果物の匂いを嗅ぐために鼻を付けてたこと。(カナダ・りみ)

●ストライキが多い。学校の先生は休む事が多いので、0時間授業とか1時間授業は日常茶飯事。(フランス・レオン)

Q. YL で自分が変わったことは？

●図太い神経を手に入れた。(ドイツ・トトロ)

●自己肯定感が爆上がり。(イタリア・よっぴー)

●常に前を向いている。表情が明るくなって自分に自信がついた。何も恥ずかしくない。自分が好きになった。(フランス・ロン)

ヒッポの高校留学の受け入れ イヤロン in Japan

今年の春にタイ、スロバキア、フィンランドから9名、夏にベルギー、イタリア、スウェーデン、ノルウェー、タイ、中国、スペイン、ハンガリー、ラトビア、メキシコから25名が来日。約1年間の高校生活をヒッポのメンバー宅にホームステイしながら送っています。

イタリア 10月。神無月。日本の神様のみんな様が出雲大社に集合するとき。出雲の人々は神有月と呼ぶ。テストが終わった後、弓道に集中しました。16キリの弓を使い始めた。とても嬉しいです！練習試合があった。16分の2だけ当たった。もっとがんばりたいです！(10月のレポートより)(G. F.さん・17歳/愛媛県・アミティエF)

きんにくがもりもりでいっぱいだっ
てをしてくれます。
Yちゃん・小1



カバ人のつぶやき

2023年の夏はCOVID19の影響で、4年近く実施できずにいた世界各地との交流プログラムがほぼ全面的に再開できることになった。従来からのアジア各国、アメリカやヨーロッパとのプログラムに併せて、新たなプログラム「モンゴル・ゲルネイチャーキャンプ」「カザフスタン・キルギス交流」が実施され、国内でも「沖縄やんばる・はまばる多言語ネイチャーキャンプ」がスタート。総勢約1,500人の参加になったという。

特に「モンゴル」や「カザフスタン・キルギス」交流に参加した人たちは私がかねてからお話ししてきた、悠久の歴史と自然、そして多民族、多文化が融合している大なる多言語の世界をまさにリアルで体験されたのである。この数年間は主にオンラインでの交流が工夫を重ねつつ行われてきた。オンライン交流でも想像していた以上の素敵な出会いが生まれていたのだが、この夏のリアルの交流ではさらに“Extraordinary”な体験が皆の中で実現したのである。皆が「年

齢にかかわらず本当にすばらしい感動を持つことができました」などと語ってくれた。生きた人間としての、本来の嘘じゃない“自然との出会い、人間との出会い”を体全体で感じたのである。

10月に東京で「オラ！族の国境のない世界～家族を見つけた今年の夏～」と銘打ったワークショップが行われた。ヒッポのメンバーは皆“オラ！（¡Hola! スペイン語のこんにちは）”と挨拶するので、“オラ族”と呼ぶようになったという。参加されたモンゴル駐日大使館公使の方は「皆さんの話すモンゴル語はとても自然です。モンゴルに帰りたくなくなりました」と感想を話され、「どの国の人とも、どこへ行っても直ぐに仲良くなってしまっ皆さんのような人たちが世界中に広がっていけば、皆が幸せになれるですね」と嬉しいコメントをいただいた。来年の春にはフィンランドへの「オーロラと犬ぞり+ホームヴィジット交流」（仮称）の計画も発表され、皆のワクワク感は高まった。（鈴木堅史・言語交流研究所代表理事）

Information /

●今回で10回目となる若者による多言語プレゼンテーション大会 LEX Multilingual Presentation for Youth TOKYO (LMP) が初のオンライン予選を経て、2月4日（日）に本選が行われます。

詳細はこちら→
LMP公式サイト



●多言語マテリアルと書籍キャンペーンの季節となりました。この機会にお家の多言語の環境をさらに充実させてみませんか？

●『マナイマ〜ブック』の中の「学びのあり方」がスペイン語・英語・日本語でSDカード&ブックになります。翻訳は終了してこれから録音。お楽しみに！

●ベベフィーから生まれた本『赤ちゃんと話そう!』が楽天ブックス他、全国の書店で注文できるようになりました。Instagramも好評発信中！

@hippo_akachan
みんなフォローしてね! →

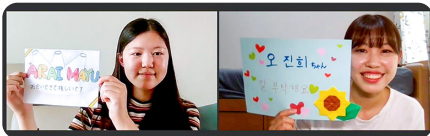


海外ヒッポ /

WORLD HIPPO

▶韓国ヒッポ:

オンライン交流で2人も友だちできたよ



この7月に2回のオンライン交流に参加した。最初のパーティーは3歳年上の姉で、2番目のパーティーは7歳年下の男の子だった。First Buddy and I both majored in art and both love music, so it was good to talk well. We made kimchap together and talked a lot. 2番目のパーティーは年の差がかなりあって心配したが、思ったよりよく合ってかわいい弟が一人できた気分が良かった。一緒に寿司を作ったが、ただ適当にご飯をまとめて魚を乗せるのではなく、すごく専門的に作ったので不思議だった。私が直接作って食べたらもっとおいしかった。 이외에도 같이 메타카츠도 하고 카드게임도 하며 즐거운 시간을 보냈다. オンライン交流は今回が初めてだったが、思ったより実際のホームステイのように生

々しい感じがし、このようにオンラインでも外国人の友だちを作ることができるというのが不思議だった。（O. J.さん・大1/웃자웃자F 우챠우챠F）

▶LEX America:

交流再開！日本・メキシコ・モンゴルへ Saim baitsagaa-noo! (モンゴル語の挨拶)

This summer our members took to the skies for the first time since 2019. In Japan, Mexico, and Mongolia, members found joy, adventure, and heart to heart connections with host families and new friends.

“We had a wonderful experience in Japan. What impressed me most was the hospitality of everybody, the kindness, and also the generosity. I have visited Japan in the past, but none of those visits were as rewarding as this one with LEX / Hippo.”

(Elizabeth White / Executive Director)



▶LEX México:

夏のホームステイ&25周年記念合宿♪

En Hippo México Summer-夏-Verano-여름 it's our favorite season! We can feel ヒッポの温かい環境 con Intercambios de 青少年交流、家族交流とももちろんCongreso. 夏が来るとみんながドキドキするな



あ！ ¡Es muy emocionante! Cuántas nuevas experiencias, muchos nuevos amigos y crecimiento. 今年のコングレッソはお姫様みたいに典型的なドレスのベラクルスに行ってきました。自然がいっぱいある所だったので Sé Natural! をヒッポの皆さんで過ごすことができました。また、Wi-fiも電話もつながらなかったのも、誰も携帯使っていない、写真を撮るためにだけ。本当に Human communication and connection was amazing. No puedo esperar al siguiente Hippo Summer. I can't wait! Non sto più nella pelle. (Fernanda Mares / Coordinator & Fellow)